

そよかぜ診療所・はるかぜ診療所での研修を終えて

神戸大学医学部附属病院 初期研修医 Y

そよかぜ診療所・はるかぜ診療所での地域医療研修は限られた期間ではありましたが、地域に根ざした医療の現場で多くの経験を積むことができ、大変充実した研修となりました。

診療所では頸部エコーや心エコーの検査を数多く担当させていただきました。これまで自信が持てなかった分野でしたが、実際に自分の手でプローブを操作し、画像を描出する機会を繰り返し与えていただきました。先生方は検査のたびに丁寧にフィードバックをくださり、描出のコツや病態の見方などを具体的に教えてくださいました。そのおかげで、最初は不安だった心エコーも、最終週には所見を自分なりに説明できるようになり、確実なスキルアップを図ることができました。

また、採血手技についても、看護師の方々が非常に熱心に指導してくださいました。これまで経験が少なく苦手意識のあった手技でしたが、手順の確認から実践まで丁寧にサポートしていただき、毎日のように練習を重ねることができました。患者さんへの声かけや針の角度、失敗したときのリカバリー方法など、現場ならではの実践的なアドバイスを数多く学びました。研修の終盤には、自信を持って採血に臨めるようになったことが大きな収穫でした。

私はリハビリテーション科を志望していますが、今回の研修では生活期の訪問リハビリテーションの現場を実際に見学・同行することができました。訪問リハビリテーションでは、病院とは異なり、患者さんが自宅でどのように生活しているか、家族の支援や環境がどのように関わっているかを実感できました。リハビリテーションに積極的に取り組む方もいれば、なかなかやる気を持ってない方もいらっしゃり、どのような声かけや関わり方をすれば意欲を引き出せるのかを考える良い機会となりました。

また、私の母は訪問診療に従事しており、私自身以前よりその魅力について話を聞く機会が多くありました。今回、実際に毎日訪問診療に同行し、地域で暮らす患者さん一人ひとりに寄り添う医療の姿を目の当たりにすることで、その魅力を改めて実感しました。患者さんやご家族との信頼関係を大切にしながら、その人らしい生活を支える医療の形に深く感銘を受けました。

そよかぜ診療所・はるかぜ診療所のスタッフの方々は、職種を問わず皆さんがいつも気にかけてくださり、とても熱心に教えてくださいました。疑問点をその場で質問できる雰囲気があり、このような温かい環境の中で研修に集中できたことを心から感謝しています。

この1か月の地域研修を通して、診療技術だけでなく、地域医療やリハビリテーションの在り方について多くの学びを得ることができました。今後も今回の経験を糧に、患者さん一人ひとりの生活に寄り添えるリハビリテーション科医を目指して努力を続けていきたいと思っています。